

プレスリリース - 2022年9月15日(木)

日本最大級の音楽フェスティバル  
**横浜音祭り2022**  
**9月17日いよいよ開幕!**



YOKOHAMA  
**OTOMATSURI**  
 横浜音祭り

横浜の「街」そのものを舞台とした日本最大級の音楽フェスティバル「横浜音祭り2022」が、いよいよ9月17日(土)に開幕します。

国内外で活躍するトップアーティストの公演や、子どもたちがプロのミュージシャンに学ぶワークショップ、週末ごとに街なかで様々な音楽が楽しめるストリートライブなど、約300の多彩なプログラムを展開します。

国籍や世代、ジェンダー、障害の有無を越えて、音楽の楽しさを身近に感じていただける「横浜音祭り2022」に、是非お越しく下さい。

1 フェスティバル概要

- (1)会 期 2022年9月17日(土)～11月6日(日) <コア期間51日間>
- (2)会 場 横浜市内全域(横浜の“街”そのものが舞台)  
 (主な会場: Billboard Live YOKOHAMA、KT Zepp Yokohama、  
 神奈川県立音楽堂、横浜みなとみらいホール、クイーンズスクエア横浜 ほか)
- (3)ジャンル クラシック、ジャズ、ポップス、日本伝統音楽などオールジャンル
- (4)プログラム数 約300
- (5)ディレクター 新井鷗子
- (6)公式サイト <https://yokooto.jp/>  
 公式Twitter @yokohamaoto  
 公式Facebook @yokohamaotomatsuri  
 公式Instagram @yokohama\_otomatsuri

2 横浜音祭り2022の見どころ

横浜音祭り2022のオープニングを飾る「横浜ライブ・ホップ! 特別公演」には、モノクル、Kan Sano(acoustic band set)、coba、Original Love、さかいゆうが出演します。また、クロージングコンサートには、反田恭平 & Japan National Orchestraが出演します。

フェスティバル開幕にあわせ、ガイドブックの配布を開始しました。

モノクル、Kan Sano(acoustic band set)、coba、反田恭平のインタビューも掲載していますので、ぜひご覧ください。



- ガイドブック配布場所: 横浜市内区役所、文化施設、市民情報センター、公会堂、地区センター、区民文化センター、市内観光案内所 など

○ガイドブックURL: [https://yokooto.jp/wp-content/uploads/2022/09/guidebook\\_2022.pdf](https://yokooto.jp/wp-content/uploads/2022/09/guidebook_2022.pdf)

[横浜音祭り2022 開催概要]

会 期: 2022年9月17日(土) から11月6日(日) まで  
 会 場: 横浜市内全域<横浜の“街”そのものが舞台>  
 ジャンル: クラシック、ジャズ、ポップス、日本伝統音楽などオールジャンル  
 お問い合わせ: 045-663-1365 公式ウェブサイト <https://yokooto.jp/>



プレスリリースお問い合わせ先: 横浜アーツフェスティバル実行委員会事務局(担当: 野村・武部)  
 〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10 30階(横浜市文化観光局内)  
 TEL 045-671-3426 FAX 045-663-1928 E-MAIL [info@yokooto.jp](mailto:info@yokooto.jp)

## 出演アーティストプロフィール

モノクル (吉田沙良 (Vocal) / 角田隆太 (Bass) )

吉田沙良 (Vocal) と角田隆太 (Bass) によるソングライティングデュオ。2020年10月にシチズンクロスシーのCMソングとして書き下ろした「Every One Minute」を、2021年3月にはモーニング娘。の「抱いてHOLD ON ME!」をメロウでアーバンなファンクアレンジでリリースし話題に。2021年ビルボードライブ東京、横浜、大阪の単独公演を成功させる。2022年1月クールのTVアニメ「ヴァニタスの手記」エンディングテーマ「salvation」を2月23日にリリース。詩情豊かな世界観と洗練されたポップセンスから、感度の高い音楽愛好家や幅広いジャンルの著名アーティストから支持されている。

Kan Sano(acoustic band set)

キーボーディスト/プロデューサー。バークリー音楽大学ピアノ専攻ジャズ作曲科卒業。ビートミュージックシーンを牽引する存在である一方、ジャズとクラシックを融合したような独自のスタイルでピアノ一本の即興演奏もおこなう。バンドセットのライブではトランペット、ベース、ドラムも演奏し、会場を熱狂させる。リリースした楽曲「On My Way Home」「DT pt.2」「Sit At The Piano」それぞれの再生回数が1,000万回を突破。イギリスの名門レーベル Decca Recordsから日本人として初リリース。Tom Mischが「Kan Sanoのファンだ」と公言し、自らの日本・韓国公演のオープニングアクトに指名するなど国内外で活躍。さらに、プロデューサー、キーボーディスト、リミキサーとして、Chara、UA、平井堅、絢香、m-flo等、多数のアーティストのライブやレコーディングへも参加、CM音楽や劇伴も数多く担当している。

coba (アコーディオンニスト・作曲家)

ヴェネツィアのルチアーノ・ファンチェルリ音楽院アコーディオン科を首席卒業。ウィーンで開催された世界アコーディオンコンクールを始め、数々の国際コンクールで優勝。ヨーロッパ各国でのCDリリース、チャート1位獲得など、“coba”の名前と音楽は国境を越え世界の音楽シーンに影響を与え続けている。1980年代から恒例化しているヨーロッパツアー、更にはアイスランド出身の歌姫ビョークのオファーによるワールドツアー参加など、日本を代表するアーティストとしてその名を世界に轟かせている。2017年10月、「アコーディオンの聖地」とも呼ばれるイタリアのカステルフィダルド市から“アコーディオンのイメージを著しく改革した功績”により、日本人初の名誉市民賞を授与される。2021年1月には通算44枚目となるミニアルバム「The Accordion Plus+」をリリースし、自身初となる全国47都道府県ツアー「coba solo tour 2020 The Accordion」を2021年12月26日奈良公演をもって全50公演完遂。2021年11月にデビュー30周年を迎え、ユニバーサルミュージックより30周年記念オールタイムベストアルバム「30th Anniversary BEST」をリリースした。



プレスリリース — 2022年9月15日（木）

## Original Love

1987年、田島貴男を中心とする前身バンド“レッドカーテン”から“Original Love”に改名。88年 Original Loveと並行し、PIZZICATO FIVEに加入（90年まで）。91年Original Loveとしてアルバム『LOVE! LOVE! & LOVE!』でデビュー。代表作としてシングル『接吻』『プライマル』アルバム『風の歌を聴け』などがある。近年はバンドでの表現以外に、田島貴男がひとりでループマシーンやフットストンプ、フットタンバリンなどを駆使して行う「ひとりソウルショウ」としての表現、また弾き語りでの表現で新機軸をみせる。2021年、Original Loveはデビュー30周年を迎え、7月14日にニューシングル『Dreams』をリリース。バンドとして日比谷野外音楽堂公演を成功させ、初のオフィシャルカバーアルバム『What a Wonderful World with Original Love?』もリリースされるなど注目を集めている。



## さかいゆう

18歳の時に突如音楽に目覚め、20歳で上京。22歳の時、単身でLAに渡り独学でピアノを始める。唯一無二の歌声と、SOUL・R&B・JAZZ・ゴスペル・ROCKなど幅広い音楽的バックグラウンドをポップスへと昇華させる、オリジナルティ溢れるサウンドが魅力の男性シンガーソングライター。自身の楽曲だけでなく、小泉今日子、坂本真綾、SMAP、Sexy Zone、Da-iCE、DISH//、土岐麻子、新妻聖子、薬師丸ひろ子、和田アキ子、等多くのアーティストに楽曲提供をおこなっている。2018年から世界中を旅しながら楽曲制作・レコーディングを行い、John Scofield(Gt), Ray Parker Jr.(Gt), Bluey from Incognito(Gt), Stewart Zender(Bs ex.Jamiroquai), Terrace Martin(Sax), Nicholas Payton(TP), Renato Neto(Key)など世界的なプレイヤーとのレコーディングを実現。2021年5月12日に8枚目のオリジナルアルバム『愛の出番 + thanks to』をリリース。iTunes R&Bチャートにて1位を獲得し、連続1位獲得記録を更新中。



## 反田恭平

2021年第18回ショパン国際ピアノコンクールで日本人として半世紀ぶりの第2位を受賞。

2016年デビューリサイタルを機にソリストとして活動を展開し、僅か3年間でベルリン・ドイツ響、ワルシャワ・フィルをはじめとする国内外のオーケストラと100回以上共演を重ねている。18年からはMLMナショナル管のプロデュース、19年には自身のレーベルを立ち上げ、今年のコロナ禍ではいち早く有料のストリーミング配信を行うなど、クラシック音楽の普及にも力を入れている。20年10月、ウィーン楽友協会大ホールにて鮮烈な代役デビューを果たした。現在、F. ショパン国立音楽大学研究科在籍。



Photo: Yuji Ueno

## Japan National Orchestra

ピアニスト反田恭平がプロデュースし、同世代のソリストとしても活躍する実力派アーティストに声をかけ2018年「MLMダブル・カルテット」としてスタート。2019年「MLMナショナル管弦楽団」として管楽器を加え再編成してコンサートツアーを行い、東京・サントリーホールで行われた公演では2000席が完売したことをはじめ、室内楽では異例の動員数をたたき出した。

2021年1月MLMナショナル管弦楽団をJapan National Orchestraと改名。5月には株式会社となり運営をスタートした。8月からはメンバー個々人のリサイタルシリーズかい展開中など常にアンサンブルの新しい魅力の開拓に挑戦している。



Photo: Kenryou Gu